

経営比較分析表（平成29年度決算）

静岡県 御前崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	91.97	99.84	2,376	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
33,192	65.56	506.28
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
33,477	47.76	700.94

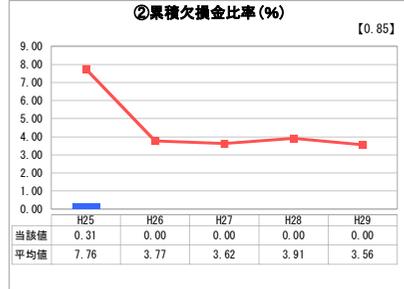
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成29年度全国平均

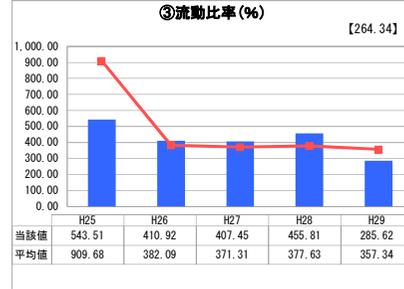
1. 経営の健全性・効率性



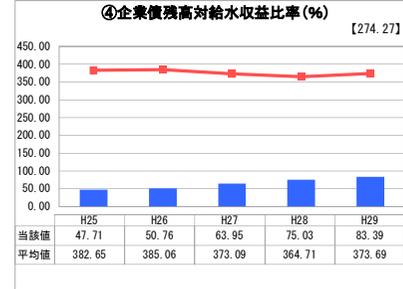
「経常損益」



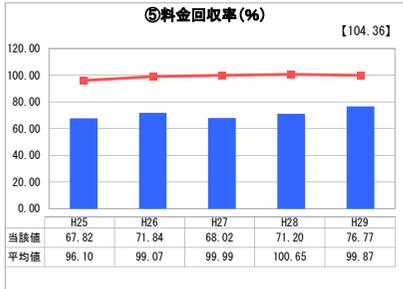
「累積欠損」



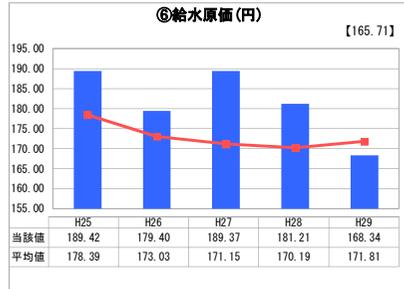
「支払能力」



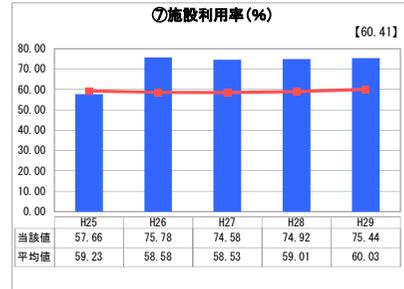
「債務残高」



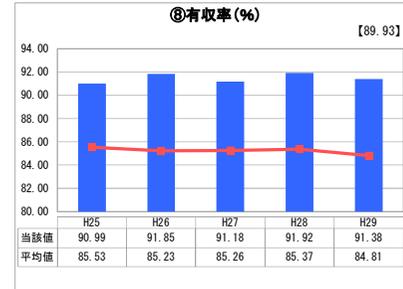
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

一般会計からの繰入金により、類似団体と比較して低価格で水を供給している。その結果、経常収支比率・料金回収率ともに低くなっている。現状は、給水にかかる費用が料金収入で賄い切れておらず、独立採算による経営が成されていないため、累積欠損金はないものの不健全な経営状況である。

なお、平成29年度から静岡県大井川広域水道企業団の料金が見直され受水費が前年度比約12%減となったため、給水原価が大幅に下がっている。また、施設の効率性は高く、企業債への依存度は低くなっている。

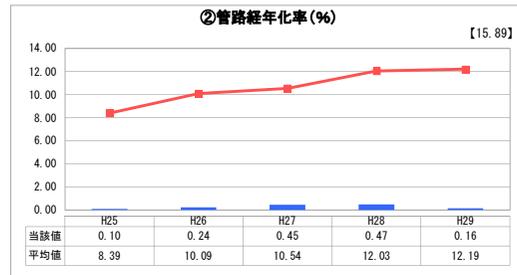
2. 老朽化の状況について

平成24年度に策定した老朽管更新計画に基づき、適切に老朽管の更新を行っているため、管路更新率・有収率が高く、管路経年化率が低くなっている。

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

地方公営企業の特別会計におけるその経費は、その経営に伴う収入をもって充てることが原則であり、現在の供給単価から給水原価を差し引いた損金は、早急に改善すべき点である。当面の間は、自己資金の活用により、単年度決算での純損失は生じない見込みであるが、健全経営とは言えず、料金改定を含めた経営の見直しを行う必要がある。

そこで、業務の見直しにより、窓口業務の民間への委託を実施し、経費の削減と合わせ、料金徴収業務の強化を行っている。また、無収水量の一番の要因である地中埋設管からの漏水を減少させるため、今後も計画的に老朽管の更新を行い、有収率の向上を図っていく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。